



児童学科学生会と合同で主催した「新入生交流会」



学生に向けて「自分から行動を起こそう」と提案することが趣旨の新イベント「Take Action」



「オープンキャンパス」ではスタッフシャツを着て、見学者をサポート

「今年度は今のところ2号発行することができました。本当は4号が目標なのですが、少しずつでもいいから、学生会の伝統のようなものを作ってあげたいと思っています」(江上さん)

『Take Action(テイク・アクション)』という新イベントの立ち上げで、中心的な役割りを果たしたのは2年生の寺山智洋君。

「この学科ではどんなことができるのか、先輩たちがどんなことをしてきたのかを、新入生にわかりやすく紹介しようという企画です。大学で何をすべきか方向性の定まっていな人に対して、イベントを通じて目的意識や向上心を持ってもらいたいと思い企画しました」と真剣なまなざしで語ってくれました。

このような先輩たちの努力は確実に実を結んでいるようで、学生会の1年生は意欲的なメンバーばかり。

「文章を書くのが好きなので、広報部でフリーペーパー制作に関わらせてもらっています。先輩たちと関わること自体

が面白いし、新鮮です」(1年・佐藤ゆりさん)

「大学って自分から行動しないと、ふわふわしているうちに卒業してしまう気がします。自分のためになる活動をしたくて学生会に入りました」(1年・齋藤美保子さん)

「中学高校と生徒会や文化祭実行委員として活動し、学校行事に関わる面白さを経験しました。自分たちの企画でみんなが楽しんでいる笑顔を見るのが好きで、それを生き甲斐に活動しています」(1年・寺尾巧君)

と、いずれも貴重な戦力として活動に参加しています。

『学内コンペ』(学生によるデザインコンペ)や『建築ツアー』(教授と学生による建築物の見学会)といったユニークな新企画も動きだし、活気にあふれる都市生活学科学生会。「できるだけ毎年定例の企画として続けられるものを後輩たちに残そうと、みんな必死です。学生会が一から築き上げたものがこの先何年も残って行ってくれれば、僕たちも嬉しいですし、大学のためにもなるのではないかと考えています」と、齋藤会長の言葉にも思わず力が入りました。



会長就任以前は人前で話すのが苦手だったという齋藤佑樹君(2年)。「いろいろ貴重な体験をさせてもらっています」



柳下昭一朗君(3年)は前広報部長。「僕らが立ち上げたフリーペーパーを今後もずっと続けてくれたら嬉しいです」



佐賀良健斗君(2年)が企画したスポーツ大会では綱引きを開催。「調整が大変でしたが盛り上がりすぎて良かった」



「フリーペーパー作りはまだ未熟。やりながら学んでいきたいと思います」と謙虚に語る広報部長・江上博子さん(2年)



「大学生活は最初つまずくと後が大変」という寺山智洋君(2年)。「とにかく無気力にならないで欲しい」と熱く語る。



「グループでの共同作業を体験することは、就職したときに役立つと思う」としっかりした展望を語る齋藤美保子さん(1年)。



「将来はイベントに携わる仕事に就きたい」という寺尾巧君(1年)。「学生会の仕事は自分の将来の土台作り」と語る。



高校時代はプール監視員のバイトを続けていた佐藤ゆりさん(1年)。「書くことが好きで、将来は広告や雑誌編集の仕事我希望。」